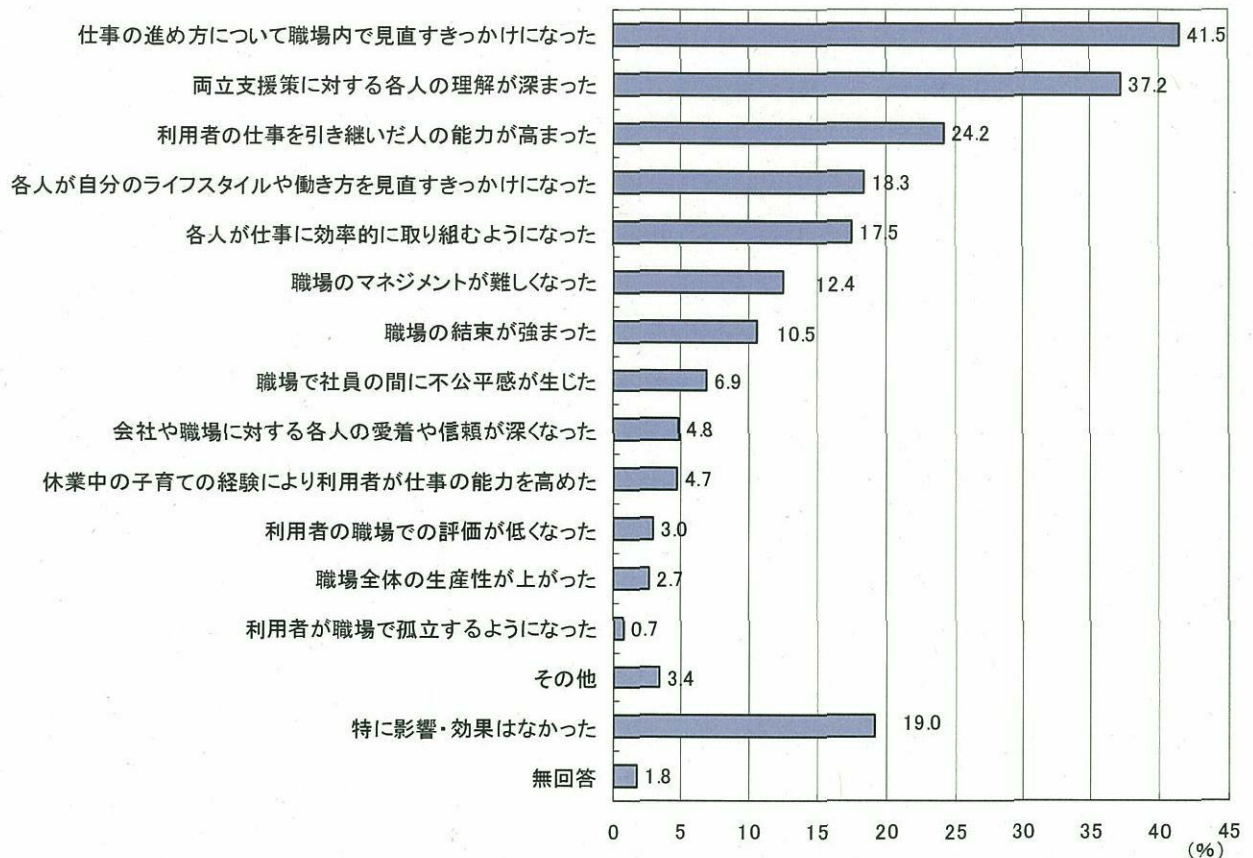


- ・ 育児の場合、子どもの生活時間にあわせてどのように家事等を効率的にするかということ
を必死に考えなくてはなりません。同じように、職場でも24時間は無尽蔵にあるのではなく、
時間内に自分に与えられた任務を遂行しなければならないという意識が男性の中に浸透
してくるのは、非常にメリットのあることと思います。(人事担当者)
- ・ 先の見込みを立てながら、効率よく優先順位を立てて働ける人が増えれば増えるほど、会
社は機動的な組織になるのではないかと思います。(人事担当者)

「育児休業制度」「短時間勤務制度」の利用による職場への影響

(n=764)



資料出所：内閣府「管理者を対象とした両立支援策に関する意識調査」(平成17年)

調査対象：企業(従業員規模100人～300人：1000社、300人超：3000社)において両立支援策を利用した社員がいる部門の管理者

(3) 男性労働者や家族にとってのメリット

育児参加をした男性は、育児を楽しむことで仕事にも意欲的になった、育児や家事を通じて新たなマネジメント力・リスク管理が身に付いた、仕事一辺倒になっていた心身をリフレッシュできた、これから育児を経験する部下に適切なアドバイスができる、夫婦の理解を深める機会となった、等のメリットがあったことを指摘しています。